

平成31年（令和元年）度 教育行政評価シート（自己評価）NO. 1

主要事業名	オリンピック教育の推進	担当	教育指導課
-------	-------------	----	-------

1 事業概要

目的（事業の目指すところ）	<ul style="list-style-type: none"> 2020年東京オリンピック・パラリンピックムーブメントの促進。 鹿嶋市の未来を担う子どもたちが、オリンピックに直接触れることにより、開催都市のレガシーを子どもたちの心に残していく。
---------------	---

目的達成のための手順	<ul style="list-style-type: none"> 鹿嶋市オリンピック・パラリンピック教育推進事業実施計画の策定 オリンピック・パラリンピック競技のトップアスリート学校派遣 東京2020公認プログラムの参画プログラム及びオリンピック・パラリンピック教育実施校の認証
------------	--

2 実績

<p>公益財団法人日本サッカー協会と協定を締結し、2ヵ年計画でオリンピック・パラリンピック競技のトップアスリートを市内公立小中学校全校に派遣する事業を実施。令和元年度の小学校派遣では、オリンピック2大会で銅メダルを獲得した競泳の星奈津美氏や、新体操女子元全日本代表の畠山愛理氏ら、著名なメダリスト・オリンピックアンバサダーを務め、「夢の教室」や「特別講演会」を実施するなど、オリンピックムーブメント促進に寄与した。</p>

3 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	事業完了
改善策	事業完了

平成31年（令和元年）度 教育行政評価シート（自己評価）NO. 2

主要事業名	安全安心な給食の提供・食育活動の実践	担当	給食センター
-------	--------------------	----	--------

1 事業概要

目的（事業の目指すところ）	<ul style="list-style-type: none"> 学校や関係機関、給食関係業者等と連携し、安全でおいしい給食の提供を行う。 地元の食材を使った献立や郷土食等の提供を行う。 学校教諭（栄養教諭・給食主任等）と連携し、学校給食における衛生管理や食育の推進を図る。
---------------	--

目的達成のための手順	<ul style="list-style-type: none"> 学校や関係機関、給食関係業者等と連携し、安全でおいしい給食の提供を行う。 地元の食材を使った献立や郷土食等の提供を行う。 学校教諭（栄養教諭・給食主任等）と連携し、学校給食における衛生管理や食育の推進を図る。
------------	--

2 実績

<ul style="list-style-type: none"> 栄養教諭による各学校への食育授業を実施し、給食の時間を使って各担任の先生や給食主任の先生により食育の推進を図った。 鹿嶋産しらすを使った給食を年2回実施し、マスコミを通じて地元食材による給食の提供と保護者や市民に地産地消のPRを図った。 学校給食主任や学校給食配膳員等との会議研修、センター職員による学校訪問等を実施し、学校における衛生管理の徹底を図った。
--

3 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	<ul style="list-style-type: none"> 地産地消の推進は、給食数（約5,800食）に必要な多量の食材を使用するため、安定的に確保（生産）できる米以外の地元食材（取扱品目）が少ない。 給食センターは平成19年度に整備してから約11年が経過し、施設や調理器具等の経年劣化による故障が増加している。また、昭和63年度に整備された大野中学校（調理場）は30年以上が経過し、部分補修等を行って実施しているが、大規模な見直しが必要な時期を迎えている。給食調理・提供を中断することなく円滑に運営するためには計画的な改修等が必要である。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> 地場産物の提供による児童生徒の地元理解を深めるために、農林水産課と連携しながら新たな地場産食材の活用を検討する。 施設の現状と調理器具等の耐用年数を調査し、計画的な改修を進める。※修繕・改修工事等は、学校長期休み（夏休み等）中に行う。 鹿嶋市における学校給食の体制現状（給食センター、大野中単独調理場）や今後の生徒数の推移等を調査し、統合又は大規模改修を令和3年度までに検討していく。

平成31年（令和元年）度 教育行政評価シート（自己評価）NO. 3

主要事業名	主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善	担当	教育指導課
-------	----------------------	----	-------

1 事業概要

目的（事業の目指すところ）	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の発見及び解決に向けた、主体的・対話的で深い学びの充実を図る。 ・主体的・対話的で深い学びを充実するためのカリキュラム・マネジメントを、各校の実態及び特色に応じて作成し、校内の共通理解を図る。
---------------	--

目的達成のための手順	<ul style="list-style-type: none"> ・研修を中心とした教職員の指導体制を構築 ・茨城県「学力診断のためのテスト」の実施及び検証 ・授業改善サポート事業の実施 ・情報教育（プログラミング教育）研修会の実施 ・平成31年度全国学力・学習状況調査の実施及び検証
------------	---

2 実績

	<p>授業改善プロジェクト（5年間）を経て、令和元年度は、授業改善サポート事業を中核とした研修推進に取り組んだ。各学校を訪問し、授業改善の視点について共通理解を図り、指導助言を実施することで、教職員の授業力の向上につながっている。</p>
--	---

3 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	<p>推進校の取組を市内小中学校に広げることや、教科等で育成したい資質・能力が何であるかを明確にして、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくりをすること、情報活用能力の育成を図る学習活動を年間指導計画に位置付け、児童生徒にICTの基本的な操作の習得とプログラミング的思考を基にした論理的思考力を身に付けさせること。</p>
改善策	<p>①②③について 本市の課題と課題解決のための推進校の取組と市独自のアクションプランを教員に提示し、教科等で育成したい資質・能力が何であるかを明確にした授業づくりの実践と児童生徒達に身に付いた思考力や表現力を、他の場面でも活用・発揮できるように、教科横断的な年間指導計画の見直し。授業改善の視点を教務主任会等で伝達 ②について 研修内容の見直し・改善を図り、プログラミング的思考を伴う学習作りに難しさを感じている教員を対象とした研修の実施</p>

平成31年（令和元年）度 教育行政評価シート（自己評価）NO. 4

主要事業名	系統的な英語教育体系の構築と推進	担当	教育指導課
-------	------------------	----	-------

1 事業概要

目的（事業の目指すところ）	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児期から英語に慣れ親しむことにより、言語や文化に対する興味・関心を高め、国際理解の基礎を培う。またコミュニケーション能力を育成し、将来を見据え国際社会に対応できる人材育成を目指す。 ・中3における英検3級程度の英語力を有する生徒の割合50%以上を保つ。
---------------	---

目的達成のための手順	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園・保育園・認定こども園8園と小・中学校17校へのALT配置 ・英語力向上スーパーバイザーによる随時の授業参観と助言 ・小学校を対象に、毎時間のレッスンプラン作成支援・授業のポイント提示 ・新学習指導要領が求める資質・能力や指導内容等に関する研修会や研究協議会の定期的な実施 ・小学校外国語指導力向上プロジェクトの実施（推進校：平井小、講師：鳴門教育大学准教授） ・中学校外国語授業改善プロジェクトの実施（推進校：大野中、講師：敬愛大学教授、元文科省教科調査官） ・小学校全学級担任を対象とした研修の実施 ・教員の指導力向上、小中の円滑な接続を目指した、各中学校区ごとの英語訪問指導の実施
------------	--

2 実績

	<p>R2から次期学習指導要領が全面実施となる。本市では国と県(H31～)に先駆け、昨年度から引き続き、小5・6年生において教科としての時間と内容を先行実施した。また、大学入試制度・全国学力・学習状況調査においても、今後は4技能の英語力をみるテストとなるため、外部テスト（4技能）の実施を行い、客観的に英語力を捉える機会を設けた。なお、県の事業である「質の高い教育を実現するための遠隔教育に関する実証研究」では、本市2校が特例校となり、新しい授業形態の実証実験を行い、来年度も継続して取り組む予定である。</p>
--	--

3 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	<p>中学校においては4技能をそれぞれ測定することができる外部試験を実施したが、学校により活用の仕方に差がみられる。小学校5・6年生においては、担任が主となり授業を進める必要があるため、より一層、ALTとイングリッシュサポーターとの連携が必要となってくる。また、英語力や指導に不安を抱いている小学校学級担任が多いため、英語力・指導力の向上に向けた研修の充実及び人材の育成・確保が課題となる。</p>
改善策	<p>4技能を測定できる外部試験の継続実施、実施学年の範囲を広げるとともに、活用方法の助言を行っていく。毎月1回のALTへの研修、英語力向上スーパーバイザーと指導主事による随時の授業参観での指導・助言により、教員の英語力・指導力向上を図っていく。</p>

平成31年（令和元年）度 教育行政評価シート（自己評価）NO. 5

主要事業名	ICT教育環境の充実	担当	総務就学課
-------	------------	----	-------

1 事業概要

目的（事業の目指すところ）	整備したICT機器を、学習活動において適切に活用することで、児童生徒の情報活用能力育成の充実を図る。
---------------	--

目的達成のための手順	<ul style="list-style-type: none"> ・大容量高速通信ネットワークの整備 ・一人一台のタブレット端末の配備 ・端末の利活用を充実させる大型ディスプレイ等の周辺機器の整備 ・教職員を対象にしたICTを活用した授業等の研修の実施
------------	--

2 実績

	<p>教育におけるICTを基盤とした先端技術の効果的な活用が求められている一方、現在の学校のICT環境は遅れている。また、学校休業に伴い、ICTを活用した教育の重要性が再認識され、早急にICT環境を整備する必要がある。</p>
--	---

3 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	<p>タブレット端末や大型モニターなどの周辺機器等の必要物品の整備。 ICT環境を十分活用できるための支援、事業実施するための経費の確保。</p>
改善策	<p>①高速大容量の通信の確保、②一人一台のタブレット端末の整備、③ICT機器を十分活用できるよう、支援員やサーバーの配置 各々、担当課が異なるため、情報共有しながら、一体的に事業を進める。 経費については、国においても予算が計上されているため、補助金や交付金を利用する。</p>

平成31年（令和元年）度 教育行政評価シート（自己評価）NO. 6

主要事業名	教育施設の整備	担当	教育施設課
-------	---------	----	-------

1 事業概要

目的（事業の目指すところ）	<ul style="list-style-type: none"> ・タイムリーな校舎の改修により長寿命化と教育環境の充実を目指す。 ・普通教室のエアコン整備が完了し、今後は授業での使用頻度の高い中学校から特別教室への整備を進め、児童生徒が安心・快適に学べる環境を整える。
---------------	---

目的達成のための手順	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校施設の老朽改修工事を計画的に進める。 ・小中学校エアコン整備を計画的に進める。
------------	---

2 実績

	<p>ほとんどの施設が建設から40年以上経過しているため、大規模改造工事（老朽箇所の全体的な改修）の計画的な実施が不可欠である。鹿島中に引き続き、R3年度中野東小・R4年度高松小・高松中・R5年度三笠小・大同東小が予定されている。小中学校全校の普通教室に、エアコン整備が完了した。R2年度からは授業での使用頻度の高い、中学校の特別教室に順次エアコンを整備予定。</p>
--	--

3 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	<p>大規模改造事業を計画的に進めていくには、市財政の負担を軽減するためにも国庫補助金の確保が重要となる。</p>
改善策	<p>小中学校施設の長寿命化を図っていくためには、残り14校の大規模改造事業について、国庫補助金が採択されない場合でも毎年計画的に実施していくべきである。</p>

平成31年（令和元年）度 教育行政評価シート（自己評価）NO. 7

主要事業名	きめ細やかな教育の実施，支援員の配置	担当	教育指導課
-------	--------------------	----	-------

1 事業概要

目的（事業の目指すところ）	支援が必要な児童について，円滑な学校生活が送れるように，また，学校全体として児童の個々のニーズに対応した体制づくりをできるようにする。
---------------	---

目的達成のための手順	<ul style="list-style-type: none"> ・目的に応じて適正にA T職員を各学校に配置する。 ・A T職員の意向調査を実施する。 ・A T職員の人事評価を実施する。
------------	---

2 実績

<p>波野小2名，豊郷小1名，豊津小1名，鹿島小6名，高松小1名，平井小3名，三笠小6名，鉢形小2名，大同東小1名，大同西小1名，中野東小2名，中野西小1名を配置した。</p> <p>また，医療的ケアを必要とする児童に対し，看護嘱託職員を1名鹿島小に配置した。児童の安心・安全，保護者の安心及び学校教職員の安全な職務遂行のため，合理的配慮として配置している。</p>

3 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	各校の要望や把握した実態をもとに，クラス数や児童数に応じて各校の実情にあわせた配置を今後も行う。
改善策	現場の状況を考慮しながら今後の活用方法をどうしていくか検討していく必要がある。

平成31年（令和元年）度 教育行政評価シート（自己評価）NO. 8

主要事業名	早期からの一貫した教育相談体制の充実	担当	教育指導課
-------	--------------------	----	-------

1 事業概要

目的（事業の目指すところ）	鹿嶋市において特別な支援を必要とする幼児児童生徒に対する相談体制の充実を図り，適切な支援体制を整備し，特別支援教育の推進に努める。
---------------	---

目的達成のための手順	特別な支援を必要とする幼児児童生徒に，早期からの一貫した教育相談体制を図れるよう，就学相談員を中心に支援を行う。また，多様な学びの場を提供できるよう，支援体制の整備を図る。
------------	--

2 実績

<p>文部科学省において教育支援計画を作成するように示されている中，本市は支援学級在籍・通級指導教室入級の児童生徒の作成率は100%を達成している。</p> <p>早期からの一貫した教育相談体制についての理解が深まり，訪問件数が増加している。</p>

3 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	配慮を要する児童生徒が増加しているため，多様なケースに対応できるよう，各専門機関との関係づくりが課題である。
改善策	毎年8月に，園・小中学校・高等学校・特別支援学校・専門機関の100名弱が集まる鹿嶋市拡大特別支援教育連携会議を開催しているが，今後更に専門機関との関係づくりが重要になることから，より多くの専門機関に参加してもらい，支援の輪を広げていけるよう努める。

平成31年（令和元年）度 教育行政評価シート（自己評価）NO. 9

主要事業名	小中一貫教育拡大の方向性の検討	担当	総務就学課
-------	-----------------	----	-------

1 事業概要

目的（事業の目指すところ）	小学校と中学校の9年間連続した学びの中で「確かな学力」と「豊かな人間性」の育みが期待できる小中一貫教育の全市的な推進を図る。進めるにあたっては、地域の実情にあった小中一貫教育の導入を図る。
---------------	--

目的達成のための手順	<ul style="list-style-type: none"> ・高松小中一貫教育の実践 ・高松小中一貫校の効果や課題の検証 ・高松小中一貫教育の効果や課題を検証した上での全市への拡充の検討
------------	---

2 実績

	高松小中一貫教育の実践により、英語の学力向上や乗り入れ授業における授業の質の向上、小中交流事業における児童生徒の心の育成など成果が出ている。また、広報紙等で情報発信することにより、徐々にではあるが小中一貫教育の認知度は上がっており、保護者からも交流事業を増やしたり、合同での行事を望む声が出てきている。
--	---

3 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	高松小中一貫教育の実践における乗り入れ授業や交流授業での移動時間の確保や教職員の意識の向上、高松小中一貫教育の市全体の認知度アップ等の課題解決を解決するためにも、施設一体化の検討を早急に進めていく必要がある。
改善策	令和2年度においては、高松小中一貫校の施設一体化について計画を明確にしていく。また、市全体への小中一貫教育の情報発信を継続して行うことで、認知度を高めていく。

平成31年（令和元年）度 教育行政評価シート（自己評価）NO. 10

主要事業名	教育に関する積極的な情報発信	担当	総務就学課
-------	----------------	----	-------

1 事業概要

目的（事業の目指すところ）	本市の教育行政や地域の特色のある教育活動を積極的に紹介しさまざまな媒体を通じてタイムリーに発信していくことにより、市民の本市教育行政への理解・関心を深める。
---------------	--

目的達成のための手順	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会で行っている事業、地域の教育活動や社会教育活動を取材し紹介する。 ・教育委員会会議議事録や教育委員会に関連する記事をホームページに公開する。
------------	---

2 実績

	「教育かしま」では発行部数を増やし、より多くの市民へ教育委員会の事業を知っていただく機会となった。HPについては、各課が都度タイムリーな情報を提供することができたが、それらを教育委員会としてまとめて提供することができれば、欲しい情報が見つけやすいものになると考える。
--	---

3 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	「教育かしま」とHPのそれぞれのメリット、デメリットがあり、それぞれの特性を生かし、情報を発信する必要がある。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・「教育かしま」は、興味をもつ内容にするとともに、読みやすい紙面を心掛ける。 ・HPはタイムリーな情報を掲載するとともに、知りたい情報にすぐにたどり着け、また、市の教育行政に興味を抱くような掲載内容・掲載方法にするため、市広報推進課、各課と連携する。

平成31年（令和元年）度 教育行政評価シート（自己評価）NO. 11

主要事業名	学校支援ボランティア活動の推進	担当	社会教育課
-------	-----------------	----	-------

1 事業概要

目的（事業の目指すところ）	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習社会の実現(自らの経験, 知識や学習の成果を生かす場の広がりなど) ・地域の教育力の向上 ・子どもたちの多様な体験活動の増加, コミュニケーション能力の向上など ・教職員の負担軽減や児童生徒一人ひとりへのきめ細やかな指導の充実
---------------	---

目的達成のための手順	<ul style="list-style-type: none"> ・学校支援コーディネーターの配置(地域活動支援員) ・地域連携担当者の配置(学校職員) ・学校と公民館, 教育委員会の円滑な連携 ・地域学校協働活動研修会の開催
------------	---

2 実績

	<p>事業も5年目を迎え, 学校と地域が連携・協働する体制が構築され, 制度の周知も図られてきている。学校支援ボランティアの登録者・延べ活用実績も増加し, 円滑に学校支援が図られるようになってきた。また, NPO団体のボランティア登録があり, 登録分野にも広がりを見せている。学校からもボランティアの活用により, 子どもたちの学びの充実や校内環境の美化につながったという意見も多く聞かれ, 教職員の働き方改革の一助となってきている。</p>
--	--

3 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	<p>学校は地域に開かれた教育課程の実現を目指し, 授業支援の登録を増やすとともに, 年間をとおした地域への支援要望を整理する必要がある。また, 地域のまちづくり委員会も子どもたちのために学校と連携して取り組んでいることを整理することが大切になる。学校と地域コーディネーター同士が円滑に連携できるように, 定期的に情報交換する時間を確保することが課題である。</p>
改善策	<p>学校は, ボランティア登録者を活用する授業や学校行事等を学校の年間指導計画に位置付けるようにする。また, 学校だよりを公民館に届ける時間を活用する等, 担当者同士で情報交換を定期的に行えるようにする。令和2年度から, 本市は現行の組織を活かした市独自のコミュニティ・スクールを導入するため, 学校支援ボランティア制度を地域協働活動の一つの機能に位置付け, 更なる充実を図っていく。</p>

平成31年（令和元年）度 教育行政評価シート（自己評価）NO. 12

主要事業名	ハイブリット図書館と学校図書館の充実	担当	中央図書館
-------	--------------------	----	-------

1 事業概要

目的（事業の目指すところ）	<ul style="list-style-type: none"> ・電子書籍の収集と充実を図り, 利用促進を目的とする。 ・学校図書館において, 子どもが生涯にわたる読書習慣を身に付け, 読書の幅を広げていくことができるように適切な支援を行う。
---------------	--

目的達成のための手順	<ul style="list-style-type: none"> ・利用実態に見合った電子書籍予算の確保 ・各利用者層に応じた電子書籍の提供 ・司書の合同研修会の開催 ・第二次鹿嶋市子どもの読書推進計画の策定
------------	--

2 実績

	<ul style="list-style-type: none"> ・電子書籍のPRはしているが, 市民にあまり浸透されていない現状であるため, 貸出コンテンツは横ばいの状況ではあるが, 冊数は1,803コンテンツ増加している。 ・司書の合同研修会については, 2回の開催予定が新型コロナウイルス感染拡大防止のため, 1回のみで開催となってしまった。 ・鹿嶋市第二次子どもの読書活動推進計画を策定した。
--	---

3 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	<ul style="list-style-type: none"> ・電子図書館の情報が市民にあまり浸透されていない状況であり, 図書館用の新刊コンテンツの提供も少ないため, 利用者からの要望に応えられる資料の入手が困難である。 ・司書の合同研修会については, 多くの職員が参加できるように日程を考慮しなければならない。 ・鹿嶋市第二次子どもの読書活動推進計画に添って, 読書に対する意識の啓発がどこまでできるのか, また, 読書環境及び機会の充実にも課題が残る。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・今まで以上に電子図書館のPRを広報かしまやホームページ等で周知してゆき, できるだけ新しい電子書籍が購入できるように予算の確保をしていく。 ・合同司書研修会については, 全員が参加できる研修が限られているので, 情報共有できるように方策を構築する。 ・鹿嶋市第二次子どもの読書活動推進計画通りに進めていくには, 段階的に図書費等の予算の確保が必要である。

平成31年（令和元年）度 教育行政評価シート（自己評価）NO. 13

主要事業名	不登校・長欠解消支援の充実	担当	教育指導課
-------	---------------	----	-------

1 事業概要

目的（事業の目指すところ）	<ul style="list-style-type: none"> 鹿嶋市内小中学校の長欠（不登校を含む）児童生徒の減少（出現率：小学生1%以下・中学生5%以下） 不登校児童生徒の社会的自立の実現に向けた援助指導及び学校生活への復帰
目的達成のための手順	<ul style="list-style-type: none"> 不登校児童生徒の社会的自立に向けた援助指導の実施（鹿嶋市教育センター内適応指導教室「ゆうゆう広場」の運営） 教職員研修・研究の充実 教育指導員・各相談員による効果的な学校支援体制の確立

2 実績

<p>前年度より新規に長欠状態に陥る児童生徒数の抑制につながった。中学校は前年度並の不登校生徒の出現であったが、小学校では、前年度に比べ不登校児童が6人減少させることができた。</p>
--

3 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	<ul style="list-style-type: none"> 不登校児童生徒の回復段階を理論的に理解しながら、関係機関と連携した適切な援助指導を進めていく必要がある。 今後は、不登校児童生徒のみでなく、病欠を含む長期欠席児童生徒への対応策を講じる必要がある。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> SCやSSWとの連携を強め、心理的・福祉的な視点や手法を用いて問題解決にあたることのできる校内生徒指導体制の確立を目指す。 理由を問わず年間10日以上欠席した児童生徒は、援助指導の対象とし、学校をはじめとする関係機関で連携しながら指導していく。

平成31年（令和元年）度 教育行政評価シート（自己評価）NO. 14

主要事業名	家庭教育支援体制の構築（家庭教育力向上推進事業）	担当	社会教育課
-------	--------------------------	----	-------

1 事業概要

目的（事業の目指すところ）	保護者に対し、家庭での子どもとの関わりなど家庭教育の重要性を啓発するとともに、子育てに関する悩みや不安について、保護者が一人で抱え込まず、相談し合う機会を提供する。また、県や市の家庭教育支援の施策について情報提供を行う。
目的達成のための手順	<ul style="list-style-type: none"> 各種講演会の開催 民生委員、児童委員、元幼稚園教諭等で構成される家庭教育支援チームによる訪問型の家庭教育支援（相談機会の提供）

2 実績

<p>家庭教育の各種講演会では、家庭での子どもとの関わり方や子育てに関する悩みや不安、参加者のニーズや社会情勢等を踏まえた講演会を開催することができた。特に、家庭教育を考える集いでは、ワークショップを講演に取り入れたことで、保護者からも参考になった、次回も参加したいといった意見がたくさん寄せられた。また、訪問型の家庭教育支援については、小学校1年生の子どもをもつ保護者に対象をしばり、全戸訪問したことにより、幼小の接続に不安を抱えていた保護者に寄り添う事業を実施することができた。</p>

3 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	講演会については、常に社会情勢に見合ったテーマを選定し、参加者に役立つものにする必要がある。訪問型家庭教育支援については、訪問対象を変更して全戸訪問を行ったが、保護者との面会率が上がらないことや9月以降に相談件数が減少すること等、事業の取り組み方を検討する必要がある。
改善策	講演会についてはアンケート結果を参考にしながら学校等と連携を図り、実施していく。また、訪問型家庭教育支援については、小学校1年生の子どもをもつ市内全家庭とし、保護者の不安や悩みに寄り添う支援や情報提供、さらには課題を抱える家庭の早期発見・早期支援を行うとともに、関係機関との連携を強化していく。

平成31年（令和元年）度 教育行政評価シート（自己評価）NO. 15

主要事業名	放課後子ども総合プランの推進	担当	社会教育課
-------	----------------	----	-------

1 事業概要

目的（事業の目指すところ）	共働き家庭等の「小1の壁」を打破するとともに、次代を担う人材を育成するため、全ての児童が放課後等を安全・安心に過ごし、多様な体験・活動を行うことができるよう、一体型を中心とした放課後児童クラブ及び放課後子供教室の計画的な整備を進める。
---------------	---

目的達成のための手順	<ul style="list-style-type: none"> ・『鹿嶋市放課後子どもプラン運営委員会』の開催 ・放課後児童クラブ事業における安全確保のため、参加児童の状況を把握し、指導員の配置等関係機関と協議する。 ・放課後子ども教室事業における安全確保のため、参加児童の状況を把握し、指導員の配置等関係機関と協議する。
------------	---

2 実績

	「放課後子ども総合プラン」に基づき、放課後児童クラブ事業と放課後子ども教室事業を実施した。放課後児童クラブについては、保護者ニーズに対応し、4クラブ増設しての実施となった。児童が放課後等を安全・安心に過ごすことができる居場所づくり、児童の多様な体験活動及び地域住民との関わり合いなど、総合的な放課後対策を実施することができた。
--	---

3 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	放課後児童クラブにおいて、年々増加する利用希望者を受け入れていくためにはクラブ増設が必要となるが、場所の確保が困難な状況である。現状で放課後子ども教室や放課後児童クラブで使用している教室も、学級編成によっては教室不足により調整が必要となっている。また、放課後児童クラブの基準（面積等）も令和2年4月1日から厳格運用となっているため、それに向けた対応も引き続き必要となっている。
改善策	放課後子ども教室及び放課後児童クラブの教室確保について、余裕教室や特別教室だけでは受け入れしきれない場合には、一般の普通教室の活用を視野に入れて対応していく。

平成31年（令和元年）度 教育行政評価シート（自己評価）NO. 16

主要事業名	各公民館まちづくり事業の充実	担当	中央公民館
-------	----------------	----	-------

1 事業概要

目的（事業の目指すところ）	市民一人ひとりが主体的な学習活動を展開し、学びの成果を生かした地域活動・まちづくり活動が活発に行われる持続可能な地域社会が形成されます。
---------------	--

目的達成のための手順	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の魅力や地域資源を活用した学習機会の提供及び地域住民の学習拠点としての公民館活動 ・各種事業（イベント等）を活用した地域の連帯感を育む機会の提供 ・自治会や子ども会、シニアクラブなどの地縁団体や様々な市民活動団体に対する支援・連携事業
------------	--

2 実績

	<ul style="list-style-type: none"> ・安全・安心な暮らしと住みよい地域づくりを推進していくためのコミュニティ活動の重要性を再確認し、活動全体の見える化とネットワーク型コミュニティの必要性について、多くの皆様と情報を共有するための取組みが行われた。 ・各地区まちづくり委員会においては、地域住民が主体的に地域づくり事業やまちづくり事業を実施し、地域コミュニティの形成、地域の絆づくり、地域の連帯感を育む取組みが行われた。 ・各種研修会、講座等を開催することで、地域課題や解決に向けた取組み等についての情報を共有することができた。また、学習活動の成果を生かした実践活動の支援を展開していくことで、地域住民に対し地域への興味、関心を高め、地域参画が進むように促すためのきっかけづくりとして期待できる取組みである。（新たな地域の担い手づくり）
--	---

3 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	現在各地区で行われている様々な市民活動が見える化し、ネットワーク型コミュニティの形成に向けて、各地区のリーダーの皆様と連携・協力し、地域コミュニティクラブのネットワークを結成し、地域の課題を解決していくための具体的な方法（事業）について、令和2年度以降取組んでいく必要がある。様々な地域づくりの資源と市民活動の実態を振り返りながら、計画的・効果的なまちづくり活動と、その活動を担っていく持続可能な市民（地域）組織のあり方についてより具体的なビジョンを示していくため、引き続きコミュニティクラブの策定について取組んでいく必要がある。
改善策	コミュニティクラブ策定に向けて、より具体的なビジョンを示し、地域住民が主体的に取組むための手法（事業）を検討していく必要がある。令和2年度においては、地域の基礎情報を収集した地域加算の作成や地域コミュニティに関するアンケートを実施し、地域の独自性や課題を把握し、課題解決のための取組みや事業内容の検討し様々な手立てや方法を地域の皆様とともに考え、より具体的な目標を掲げることや目標を数値化することで、わかりやすい地域コミュニティクラブの作成に取組む。

平成31年（令和元年）度 教育行政評価シート（自己評価）NO. 17①

主要事業名	文化芸術の振興	担当	社会教育課
-------	---------	----	-------

1 事業概要

目的（事業の目指すところ）	市民が文化芸術に触れる機会や自ら参加する機会を提供することにより文化芸術の振興を図る。
---------------	---

目的達成のための手順	<ul style="list-style-type: none"> 市内各施設（勤労文化会館、各公民館など）での文化芸術行事の実施 文化芸術を振興する団体、組織（文化協会、文化スポーツ振興事業団など）の支援、育成 文化芸術を通じた交流の場となる市内各施設（勤労文化会館、各公民館など）の機能の充実や開放を行う
------------	--

2 実績

<p>鹿嶋市は貴重な有形・無形の文化財を有しているとともに、地域に根付いた祭りや踊りに参加する伝統、衣食住の文化など暮らしの中に文化が根付いている伝統がある。また、日常においても、稽古事や趣味などを通じて様々な文化芸術体験が行われている。こうした市の文化財や伝統等は、誇るべきものであり、市民がその価値を十分に認識し、これを維持、継承、発展させるため、市民と行政が連携をとり様々な展開している。</p>

3 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	<ul style="list-style-type: none"> 高齢化など様々な要因によって、文化協会の会員数が例年減少傾向にある。新たな人材の発掘、育成などが課題にある。 オリンピックが延期となり、1年後を見据えて文化プログラムを計画的に行う必要がある。 語り部養成講座などで、担い手を発掘、育成することは難しく、今までと違った手法での内容の検討が必要である。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> 市内高校の文科系部活動（書道部、吹奏楽部など）やその卒業生などと協力した文化事業を展開し、文化協会への入会につなげていく。 新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら、効果的な時期に、効果的な文化プログラムを行っていく。 語り部に興味を持つ人を見つけるため、様々な媒体での情報発信（HP、SNSなど）を検討していく。 調査の説明会や独自のマニュアルを作成するなどの対策をとり、統一した解釈での調査となるようにする。

平成31年（令和元年）度 教育行政評価シート（自己評価）NO. 17②

主要事業名	文化芸術の振興	担当	中央公民館
-------	---------	----	-------

1 事業概要

目的（事業の目指すところ）	市民の芸術・文化活動に関する関心を高め、意欲的な創作活動を促し、地域文化を育みます。
---------------	--

目的達成のための手順	<ul style="list-style-type: none"> 市民が気軽に多様な芸術・文化とふれ合い、また自分の創作作品を発表する機会の充実を図るとともに、文化活動をととした市民間交流の場の提供に努めます。 芸術文化活動を活用した東京2020大会開催に向けた市民の機運の醸成を図ります。 芸術・文化団体間の連携を図り、団体活動の活性化を図れるよう支援します。
------------	--

2 実績

<p>市美術展覧会や各種芸術文化事業を開催することで、市内芸術家の創作活動への意欲を増進させる機会となっている。また、気軽に芸術文化に親しむ機会を創出することができている。継続的な課題（芸術文化活動を行う新たな人材）については、市内高等学校を訪問し現状を把握（美術部等の文化部の部員の激減）したところではあるが、引き続き市文化事業に関する情報提供（周知・広報活動）を行い、新たな人材の発掘につながる取組みを継続していく必要がある。</p>

3 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	継続的な課題ではあるが、文化協会構成員の高齢化が進んでいる。事業の継続にあたり、新しい人材の掘り起こしや後継者の育成など、市の芸術文化活動の活性化を図る取組みを市文化協会と芸術・文化事業を主管する社会教育課と連携して新たな取組みを進めていく必要がある。
改善策	東京2020大会を契機に、地域にどのようなレガシーを残すことができるのか。また、大会開催に向けた機運醸成を図っていくうえで、市の芸術文化活動をどのように生かし国内外に発信しアピールしていくのか。東京2020大会を活用した市芸術文化活動の活性化策を文化協会と連携して、引き続き取り組んでいく必要がある。令和元年度、市内高等学校を訪問し、美術部など文化部の部員が激減しているという現状を把握することができた。その現状を踏まえつつも、若い世代への広報活動を継続していくとともに、幅広い世代が芸術文化活動に参加できる取組を文化協会と検討していく必要がある。芸術・文化事業を主管する社会教育課と連携し、新たな芸術活動の担い手の育成に向けた取組を進めていきたい。また、令和2年度においては、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を講じ、新しい生活様式に基づきながら、再度オリンピック開催1年前イベントとして、まちづくり市民センターを会場に郷土の歴史や伝統文化について改めて確認し、地域の魅力を見直すための取組みを実施していく予定である。

平成31年（令和元年）度 教育行政評価シート（自己評価）NO. 18

主要事業名	青少年の体験・健全育成活動の推進	担当	社会教育課
-------	------------------	----	-------

1 事業概要

目的（事業の目指すところ）	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年をとりまく社会環境を健全化し、青少年の健全育成や非行防止などを行う。 ・自然の中での体験活動を通して、豊かな心を育み、たくましい子どもを育成する。 ・青少年がインターネットを適切に活用できるように、家庭、地域学校などにおける情報モラル教育の推進をする。
---------------	--

目的達成のための手順	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年センター事業…青少年相談員を各地区に配置し、巡回活動や相談などを実施する。 ・フロンティア・アドベンチャー…小学5、6年生を対象に、自然の中での長期宿泊体験活動を実施する。 ・各種講演会の実施…適切なインターネット利用や心の発達に関する講演会を実施する。
------------	---

2 実績

<ul style="list-style-type: none"> ・国の調査では「体験活動が多い子は、自己肯定感が高い」という調査結果出ているが、青少年の体験は減少傾向にある。フロンティアでの体験を通して豊かな心を育み、たくましい子どもの育成することは、自己肯定感の向上に有効である。 ・インターネット利用は低年齢化しており、青少年に対して有害な情報も安易に手に入る現状となっている。メディア教育や性に関する教育を充実することで、健全な青少年の育成を促進することができる。
--

3 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年のインターネットなどに関するトラブルが増加傾向にある。そのようなトラブルにも相談できるような相談員の知識向上を図る必要がある。 ・令和2年度はフロンティア・アドベンチャーを実施しないため、これまでの実施方法を検証し、継続可能な運営体制を構築する必要がある。 ・中学校入学説明会などの時間を活用してメディア講演を行っているため短時間での講演となっている。もう少し時間を確保する必要がある。 ・心とからだの講演会参加者アンケート内容を工夫し、どのような悩みを抱えているのか、調査できるように改善する必要がある。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・市独自で行っている青少年相談員の研修内容を「青少年のインターネットの利用」に関する内容にしていく。 ・フロンティア・アドベンチャーの過去の参加者へのアンケートや新たな候補地の視察などを実施し、過去の検証、今後の検討を行っていく。 ・メディア教育と同時に行っている子育て講演会の実施時間などを調整し、時間の確保を行っていく。 ・心とからだの講演会参加者アンケート内容を改善していく。

平成31年（令和元年）度 教育行政評価シート（自己評価）NO. 19

主要事業名	国指定史跡「鹿島神宮境内附郡家跡」保存活用の推進	担当	社会教育課
-------	--------------------------	----	-------

1 事業概要

目的（事業の目指すところ）	<p>史跡整備事業は、史跡公園として郷土学習や体験学習の場や、市内外の人たちが鹿嶋市の歴史に触れる場として保存整備・活用を行っていく。</p> <p>また、国史跡の保存・活用事業は、出土品やこれまでの成果を活用し、直に体験できる活動などを通して歴史に触れ、学べる機会を設定し、国史跡の理解を深めてもらう。</p>
---------------	--

目的達成のための手順	<ul style="list-style-type: none"> ・国史跡の保存を目的とした整備基本計画の策定 ・史跡の適切な保存・環境整備 ・出前講座や展示、講演会などによる周知活動
------------	---

2 実績

<p>史跡整備は、整備基本構想および保存活用計画を基に、国史跡の保存する上で基礎的資料となる整備基本計画策定に向けて、今後の指針となる基本方針を検討した。4つの地区からなる史跡について、ゾーニングの検討や歴史公園としての方針について検討し、基本設計への基準となるものである。</p> <p>収集資料や出土品の保存・活用事業は、出前講座や企画展示・特別展示などをどきどきセンターやミニ博物館ココシカで行い、鹿嶋の歴史が学べる機会を設けた。</p>
--

3 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	<p>史跡整備事業は、保存活用計画で定めた基準を基に、公有化の問題や基本設計、実施設計などの整備費用、期間の問題などがある。収集資料や出土品の保存・活用事業は、見学者・利用者を増やすための活動の見直しを検討する必要があるとともに、鹿島郡家跡については史跡範囲を明確にして見学者や周辺樹民への周知を行わなければならない。</p>
改善策	<p>保存活用計画を基に今後の基本計画、実施設計の基礎となる資料作りを行い、速やかに史跡整備が行えるようにする。また関係部署との連携も図れるように協議を進めていく。ミニ博物館ココシカの健全運営は、学校との連携を図り、地域の子ども達にも周知することを検討する。</p>

平成31年（令和元年）度 教育行政評価シート（自己評価）NO. 20

主要事業名	スポーツ活動、スポーツを通じた交流の推進	担当	スポーツ推進課
-------	----------------------	----	---------

1 事業概要

目的（事業の目指すところ）	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ実施率の向上（市民の1週間当たりのスポーツ実施率50%以上）を目指す ・オリンピック種目やパラリンピック種目に触れ合っただけで、普及促進、スポーツの楽しさを知ってもらおう。
---------------	--

目的達成のための手順	<ul style="list-style-type: none"> ①スポーツ大会や健康づくり事業の開催 ②障がい者指導者の育成講座及び障がい者が参加可能な教室の開催 ③スポーツカレッジの開催 ④「かしま SPORTS NAVI」の運用
------------	---

2 実績

	<p>平成31年度には、市民の新たなスポーツ活動の拠点となる屋内温水プール「いきいきゆめプール」がオープンし多くの市民の利用や統合した5つの小中学校の水泳授業において利用がされた。また、国体の開催に合わせて多くの市民ボランティアや中学生の発案によるおもてなし事業、小中学生の全校応援、オリンピック開催へ向けて機運の高まりによるパラスポーツの普及など市民のスポーツに対する関心が高まった。</p>
--	---

3 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	コロナウィルス感染拡大予防対策を講じるため、大勢が集まる事業やイベント等の開催が大変難しい状況であること。
改善策	感染拡大の状況を見極めながら、段階的に開催していきたい。

平成31年（令和元年）度 教育行政評価シート（自己評価）NO. 21

主要事業名	茨城国体の開催・スポーツ環境の整備充実	担当	スポーツ推進課
-------	---------------------	----	---------

1 事業概要

目的（事業の目指すところ）	第74回国民体育大会におけるサッカー競技の開催成功と、国体開催を通じたスポーツに対する市民の機運醸成を図り、鹿嶋市で開催されるオリンピックへの機運醸成につなげることを目的とする。
---------------	---

目的達成のための手順	<ul style="list-style-type: none"> ①第74回国民体育大会サッカー競技の開催 ②専門委員会会議を開催し、国体開催に向けた各種計画、要綱などの策定について、委員である関係団体や関係者と協議を図っていく。 ③記念イベントの開催や各地域イベントでのPRを行い、機運醸成を図っていく。
------------	--

2 実績

	<p>近隣の大会においては、台風等の影響を受け大会日程を短縮したり中止となった競技もあった中、鹿嶋市のサッカー競技においては大会期間中晴天に恵まれケガ等もなく無事に開催できた。サッカー競技においては、成年男子が優勝するなどの活躍により種目別総合優勝を果たした。運営面においては、国体初の取り組みとなった中学生主体によるおもてなし事業に取り組み来場者をもてなすことが出来、大変喜ばれた。また、市内全小学生による全校応援を行い1校1県応援を行い、大会を盛り上げ関係者からも好評を得た。これらの取り組みが大会に参加した子供たちの思い出となり、レガシーとして受け継がれ来年開催のオリンピックの機運醸成につながるものである。</p>
--	---

3 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	事業完了
改善策	事業完了

平成31年（令和元年）度 教育行政評価シート（自己評価）NO. 22

主要事業名	カシマススポーツセンターの改修	担当	教育施設課
-------	-----------------	----	-------

1 事業概要

目的（事業の目指すところ）	メインアリーナ、サブアリーナで発生している雨漏りの解消をするため、既存の太陽光設備を撤去し、屋根をカバー工法で改修する。その他、利用頻度の高い1階部分のトイレの洋式化、空調設備機器の部分更新やオーバーホール、メインアリーナとエントランスホールの照明機器のLED化、給湯配管の更新を行い、メディアセンターとして使用される範囲の改修を行うものである。
---------------	---

目的達成のための手順	①メインアリーナ、サブアリーナの屋根改修工事の発注、②関連工事の発注（太陽光設備脱着工事）、③電気設備工事の発注（メインアリーナ及びエントランスロビーの照明LED化、非常用電源設備改修）④機械設備工事の発注（空調設備機器の改修、トイレ洋式化、給湯配管更新）、⑤上記4つの改修工事の監理業務委託の発注、⑥工事監理業務（工程会議、確認、立会い、検査）
------------	---

2 実績

	本市では、公共施設等の総合かつ計画的な管理を行うための基本方針である「鹿嶋市公共施設等総合管理計画」を策定し、平成29年3月に鹿嶋市公共施設等総合管理計画を策定した。その中で各所の計画耐用年数が示されており、屋根20年、電気設備（弱電）20年、空調設備15年となっており、おおむね20年で修繕をすることが望ましいとしている。本施設は平成8年～9年に整備された体育施設で、鉄骨鉄筋コンクリート造3階建て、建築面積9,998㎡、延床面積12,240㎡の施設である。状態としては築22年が経過し、雨漏りや設備関係（給湯配管、空調設備、照明設備等）の老朽化が散見されており、施設規模からすると部分的な改修ではあるものの、管理計画に基づいた改修を行うことができた。
--	---

3 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	本施設は、当時48億円をかけて整備した施設である。管理計画に基づく大規模改修費は25億円がかかる見込みとなっており、財政状況が厳しい中、今後も計画的に改修工事を行う必要がある。今回の改修ではオリンピックのメディアセンターで使用する範囲の設備を主として改修を行ったため、全体の一部の改修にとどまっている。また、屋根改修工事もⅡ期工事が残っており、照明設備については、大手照明メーカーが器具等の生産を中止したことから、早急にLED化を進める必要がある。オリンピック開催年度の翌年度（令和4年度）に改修できるよう準備を進める必要がある。
改善策	計画的な改修を行うため、老朽化している設備を精査し、施設の維持に必要な工事費を算出する必要がある。一度には規模が大きいためコンサルなどの専門家の意見を交え検討していく。

平成31年（令和元年）度 教育行政評価シート（自己評価）NO. 23

主要事業名	奨学金制度の充実	担当	総務就学課
-------	----------	----	-------

1 事業概要

目的（事業の目指すところ）	優良な生徒・学生でありながら、経済的な理由によって修学が困難な者に学資を貸与し、有為な人材の育成を図る。また、一定数の新規奨学生を決定することにより、本市出身者の教育の機会を継続的に確保し、奨学資金の有効活用を図る。
---------------	--

目的達成のための手順	<ul style="list-style-type: none"> ・高塚奨学資金制度の周知 ・奨学生決定の公平、公正な審査及び適切な管理
------------	--

2 実績

	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度に実施した令和元年度新規奨学生を含め合計 人に奨学金の貸与を行った。 ・奨学金返還滞納対策については、早期対応と長期滞納者への夜間個別訪問等の実施により滞納者数及び滞納額が減少した。
--	--

3 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	<ul style="list-style-type: none"> ・出願者数が募集人数を下回る状況の解消。 ・複数年度に渡る滞納の解消。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・奨学金制度の周知をはじめ、より効果的な学生支援につながる制度の検討。 ・新規滞納者を作らないため、滞納者への電話連絡と督促通知の送付を迅速に行う。また、複数年度に渡る滞納者に対しては、催告通知に加え、電話や夜間訪問等による個別対応を継続的に行う。